



# 小学校、福祉施設に生まれ変わる。

—障害福祉サービス事業所 おおたけ松美園オープン—

問い合わせ 福祉課 ☎2146  
(取材 企画財政課)

## 「こ」で楽しい「こ」を 探して欲しい。



④自動車部品の一部製造を請け負う。素早くリングをはめていく新見喬介さんを見守る嵐川施設長。  
⑤ドアの部品になるパッキング。  
⑥手芸の得意な人が作るマスコット。イベントで販売も。

## 施設

設の責任者、嵐川純一施設長は、福祉の仕事に携わって32年のベテラン。障害者福祉の経験も持つ。障害者福祉の世界も高齢化が進んでおり、その経験も大きく役立っているようだ。

「ここでは、自動車のドアの部品をつくる作業を請け負っています。5日間で約9500個をこなします。ほかにも手芸作品を手掛ける方もおり、イベントなどで販売する予定です」と嵐川さん。

「新たな施設だから、初めから形を決めず、今はそれぞれの人の特性に合わせた対応も模索していきたい。開所をきっかけに、行ってみようかと気軽に思ってもらえたら」そう呼び掛ける。



地域との関係も重要と考える嵐川さん。施設にはラウンジという地元の方が自由に使えるスペースも設けてある。毎週金曜日には地元の方がグラウンドゴルフを楽しんでいる。その後の談話の場や集会の場として利用してもらえればと考えている。

「楽しいから、褒められるからという理由で働いていいと思いません。ここで楽しいことを探して欲しい。それがいずれば工賃のアップにもつながると考えています」。

スタートを切ったばかりの施設。この場で生活スキルや就労スキルを身につけることができることを願う嵐川さんだった。



開所式で通所者代表が「松美園ができてよかった」とあいさつ。

## 遊休施設の活用で 障害者福祉の充実を 進めたい。

旧 松ヶ原小学校を活用した福祉施設「松美園」。その誕生までの歩みを福祉課の小川和良障害福祉係長に尋ねた。

「市が策定した障害福祉計画の4期〜5期の中で、障害者の地域生活支援拠点を整備することにしています。障害者が地元で暮らせるようにという政策です。保護者の高齢化による身体的な負担の軽減や緊急時の対応など、障害者が安心して生活できる施設が求められています。それらを踏まえ、計画の中で掲げていることを実現できる事業者を探していました。具体的に①生活介護②就労継続支援B型③日中一時支援④相談支援事業⑤ショートステイ⑥グループホームの整備などです。これらの条件を満たす事業者を公募し、今回の社会福祉法人に決められました。



場所を選定するとき、市の遊休施設をピックアップした結果、旧松ヶ原小学校を使ってみました。現在の事業を行うには若干広いのではないかとという意見もありましたが、耐震化された校舎であり、通所するにも、市街地から比較的近い、自然が豊かということも要因です。また、施設誘致に際して松ヶ原地区の理解が得られたことも大きな決め手となりました。

## 遊

休施設の有効活用や多くの事業開始条件の観点からも事業者へは無償貸与としています。施設の改築などは事業者が負担、それに対して市の補助金などは投じていません。また、グラウンドや体育館などの日常的な管理を任せています。

契約では、先ほど挙げた6つの条件を5年以内に実現してもらおうようにしています。とりわけ市内でのグループホームの整備は、早急に実現してもらいたいと考えています。

この松美園の開所を足掛かりとして、市の福祉行政の充実を図っていききたいと思っています。



地域に開放されたラウンジ。自販機の売り上げも通所者の収入につなげる。

## お互いがいい形で 助け合えたら。

松ヶ原自治会長  
東田 保夫さん



松美園を背景に東田自治会長。

小学校が廃校になり11年、地域の中心的存在がなくなりました。寂しく思っていました。グラウンドゴルフをしたり、体育館を使ったりしていました。施設も傷んできました。施設の維持の面からも有効活用するのはいいと喜んでいました。こうした福祉施設やこども館など、松ヶ原に新しい人が来てくれるのはうれしいです。これら施設の人と地元が連携して何かできたらいと思っています。例えば遊休農地を活用した農産物の販売などもできたらいいなと、ほんのりとは考えています。お互いがいい形になるように助け合っていきたい気持ちです。



松ヶ原小学校のおもかげを残す施設。教室の黒板や調理台などは再利用している。